

京都新聞 2009年(平成21年)10月25日



「肝心(腎)」という言葉は、肝臓、心臓、腎臓は人体に大事な所であることより、肝要とか大切を意味します(広辞苑)。これらの臓器の働きが非常に悪くなれば、腎臓を除いて他人からの臓器移植以外に延命の道はありません。

昭和54(1979)年のことです。「食欲はありますか? 貧血もすすみ腎臓のデータも悪いので、もう透析治療をするしか方法はありません」と、ある患者さんにお話ししました。若いころから元気に農業に従事し、どんな苦難にも打ち勝つ信念をもつSさんも、症状の悪化に耐えかねて「お願いします」と答えられ、透析治療が始まりました。透析は機器を用いて、血液を清める治療法です。Sさ

透析30年、元気の秘けつは気力

ん40歳の時でした。

つい最近、私が従事している超音波検査を受けるために、Sさんが来られました。

「先生会いたかったわ」と、以前と変わらない明るい様子でした。70歳を迎えられ、今も農業を頑張っておられます。透析をはじめから30年間、Sさんは、節度をもって、よく食べ、よく働き、透析をきちっと受けて来られました。

腎臓は左右1対ある約100グラムの空豆型の臓器です。血液中から余分な水分、人体に不要な有害な物質を除去して、尿として体外に排泄する働きをします。腎臓の代役をする透析に加えて、患者さんは、水、塩分、タンパク質など一定の厳しい食事制限が必要です。加えてSさんのように、日常生活を、たくましく生き抜く気力と知恵も大切ではないかと思えます。

(公立南丹病院院長 梶田芳弘)